

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 322 号	氏名	湊 大志郎
学位審査委員	主 査 尾野村 治 副 査 畑山 範 副 査 田中 正一		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、多くの医薬品の中核をなす光学活性環状アミン類を効率的に合成できる反応を開発しようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 入手容易な環状アミンへの不斉反応を開発できれば、医薬品等に見られる複雑な構造の光学活性環状アミン類を効率的に合成できる有用な分子変換法となる。一方、電極酸化法は環境調和および原子効率に優れた分子変換法であるが、これまで不斉反応への応用はほとんど成功していない。 本研究では、基質や反応剤をキラル金属触媒とキレート環形成することにより活性化できれば、不斉触媒的に電極酸化できるとの独自の発想に基づくものであり、高く評価できる。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で検討した結果、ピペリジン環 2 位への高エナンチオ選択的求核剤不斉導入法、光学活性アミノ酸エステルを合成できるアミノアルコールやアミノアルデヒドの電極酸化を用いる速度論的光学分割法、アミノアルデヒドの化学酸化剤を用いる速度論的光学分割法、カルバペネム重要中間体を合成できる電解ジアステレオ選択的分子内炭素間結合形成反応の開発に成功した。いずれの反応もこれまで全く知られていなかった反応であり、有用な医薬分子合成にも利用可能である。以上の点から、これら研究結果と考察内容は高く評価できる。</p> <p>以上のように本論文は医薬品合成化学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（薬学）の学位に値するものと判断した。</p>			

(注) 報告番号は記入しないこと